

森林境界保全素図作成業務委託（鳥井外） 特記仕様書
（既存レーザ計測成果基礎資料作成）

第1条（目的）

本業務は、航空レーザ測量（埼玉県デジタル森林資源解析データ等）により取得したリモートセンシングデータから地形条件や樹高等の森林植生状況を把握・解析し、地籍調査への展開も見据えた森林境界明確化事業を円滑に推進するための基礎資料を作成することを目的とする。

第2条（事業概要）

地 区 名	両神薄地区の一部
面 積	1.50 k m ² (149.72ha)
筆 数	1,210 筆
縮 尺	1 / 2500
精 度	乙 2
傾 斜 条 件	急傾斜 1
視 通 状 況	山 1
筆 の 形 状	不整形

第3条（計画準備・資料収集整理）

対象範囲を把握し森林解析を実施するにあたり、適切な工程計画・使用機器・技術者の配置等を立案するものとする。

2. 受注者は、発注者が貸与する各種資料を収集するとともに、本業務で効率良く利用できるように整理するものとする。

3. 収集資料は、必要に応じて適宜複製を作成しても良いものとするが、発注者の承認を得るものとする。

4. 収集資料（貸与資料）に下記第4条に記載するデータが含まれる場合は、原則として本業務で新たに一から再作成することはせず、後続事業（地籍調査等）で活用しやすいようデータの調整・確認・整理を行うものとする。

第4条（各種データ調整・確認）

(1) 微地形表現図

航空レーザ測量データの地盤高データ（DEM）を使用し、地形の凹凸を陰影的に可視化した微地形表現図データ（長野県林業技術センター考案のCS立体図 Ver. 2 等に準拠）を作成・整備するものとする。なお、貸与資料に既存データが含まれている場合は適正性を確認・検証し、必要な調整・整理を行うこと。

(2) 林相識別図

航空レーザ測量データを用いて、レーザの反射強度等から林相識別図を作成・整備

するものとする。条件の違いにより区分条件等が異なる場合はオルソ写真等を用いて可能な限りで修正を行うものとする。なお、貸与データが存在する場合は適正性の検証及び補正整理を実施するものとする。

(3) 樹高分布図

航空レーザ測量データを解析して得られた数値表層モデル (DSM) と数値標高モデル (DEM) との差分情報から数値樹冠高モデル (DCHM) を作成し、樹冠の凹凸データ及び樹高分布図を作成・整備するものとする。貸与データの取り扱いについては前条と同様とする。

第5条（水平位置精度の確認・検証）

航空レーザ計測成果（取得した点群データの水平位置精度を確認するため、貸与された航空レーザ測量成果と現地特徴点（構造物等）との水平位置における精度検証を実施する。

2. 検証店の座標値と点群データから取得した座標地を比較し、較差を算出するとともに、標準偏差及び RMSE 等の統計量を求め、要求制度との適合性を確認する。

3. 検証結果は精度管理表として取りまとめ、報告書に記載する。

第6条（納品成果品）

本業務において納品する成果品は以下のとおりとする。各種成果品は範囲が完全に網羅された図郭を含み作成・整理すること。

区分	成果品名称・データ形式	概要 / 備考
解析・画像	微地形表現図データ (tif, tfw)	CS 立体図 Ver.2 準拠データ
解析・画像	林相識別図データ (tif, tfw)	レーザ反射強度・オルソ補正データ
解析・画像	樹高分布図データ DCHM (tif, tfw)	数値樹冠高モデル解析データ
解析・画像	オルソ画像データ (tif, tfw)	補正済航空写真データ
基盤データ	オリジナル / グラウンドデータ (las)	航空レーザ点群データ
基盤データ	DSM / DEM グリッド / 等高線データ	数値標高モデル・表層モデル・等高線
検証・管理	水平位置精度検証報告書・精度管理表	平面位置偏差解析結果・考察・地籍適用性提言
その他	収集資料一式・打合せ記録簿・その他	法務局資料等写し、協議記録簿

※ 上記成果品において、内容等に疑義が生じた場合は、発注者・受注者双方が協議の上でこれを決定するものとする。